

優秀賞

私が妹に教えてもらっていること

埼玉県立伊奈学園中学校 1年

熊田 結友

私の妹は、自閉症と知的障害を持っています。日本では自閉症を持っている人が約三十六万人、知的障害を持っている人が約五十四・七万人と言われています。私の妹は、月に一回妹と似た障害を持っている子達と学習したり、体操したりする療育へ通っています。私は妹がどんなことを学んでいるのかが知りたいと思い、以前見学に行きました。そこでは苦手なことを克服するために一人一人が頑張っていました。妹も一年前にはできなかった縄跳びが療育の場ではできるようになっていました。それは障害のない人には「簡単」と思うことかもしれませんが、障害のある人にとっては、とても難しいことなのです。

私は、外食や旅行に行ったとき、妹のような障害を持っている人をあまり見かけたことがありません。なぜなのか不思議に思いました。ただ私が気づいていないだけなのか、障害を持っている人の強いこだわり、突然奇声を発してしまう等で、家族が周囲の目を気にしてしまうからなのか。確かに、障害のある人と一緒に出かけると予想もしない出来事に見舞われることが多々あります。

世の中には、見た目でわかる障害を持っている人もいます。例えば、足が不自由で車いすに乗っている人、ダウン症で生まれてきた人などです。その一方で、見た目ではわからない障害を持っている人もいます。見た目ではわからないから、障害をなかなか周りの人に理解してもらえず、生きづらさを感じている人もいます。障害を持っている人と一緒に生活していると、その家族にしかわからない辛さを感じることがあるのだと思います。だからこそ私は、一人一人が障害を持つ人に対する視線を変えていく必要があると感じました。

障害を持っている人と心の輪を広げるためには、まず障害を持っている人が社会の中に一定数いることを知ってもらうことが重要だと思います。インターネットや本にある障害の種類や特徴を見て知ったように思うのは机上の空論です。なぜなら、同じ名前の障害でもその人個人で違うところが必ずあるからです。まず私は、その障害がある人自身を障害という視点を外し、人として良く知ることが大切だと思います。このことは、障害がない人でも友人関係を築くときと同様だと思います。

私は、妹と接するとどうしても大変なことが多く、出かけることを控えがちでした。ある日、私の塾帰りに、小さな花屋を見つけました。その時、妹は花が大好きだということを思い出しました。休みの日に散歩がてら二人でいって見たところ、妹はとても喜びました。今では常連客となっています。また、妹はブランコが好きだということも思い出し、近くの公園に連れて行こうとしました。ところが、何か探しながら妹がどんどん歩き進めてしまい、遠く離れた公園に行く事になってしまったのです。なぜこんな遠くの公園に行くのかと妹に聞いても答えは返ってきません。少しイライラしながら考えていると、妹は緑のブランコに乗りたいという願望があり、この公園にたどり着いたことがわかりました。遠くまで歩き、大変でしたが、私の住んでいる町にこんな公園もあったのだと知ることができました。また、久しぶりに乗ったブランコに小さい頃を懐かしく思い、いつまでも二人でブランコをこぎ続けました。

私が、物事ついた時から、妹は妹でした。障害のない姉妹を持つ友達を何度も何度もうらやましく思ったことがあります。今思うと好んで障害を持って生まれて来る人なんていません。妹は、人と比べることも、世の中のステータスを気にすることはありません。そんな素直な姿勢に何度も教えられたことがありました。今では、妹から貴重な経験をさせてもらっているのだと思っています。妹との日々の生活のなかで、障害関係なく小さな楽しみをこれからも沢山集めたいと思います。